

生徒指導・教育相談実践講座

あなたもカウンセラー

—不登校児童生徒への指導援助—

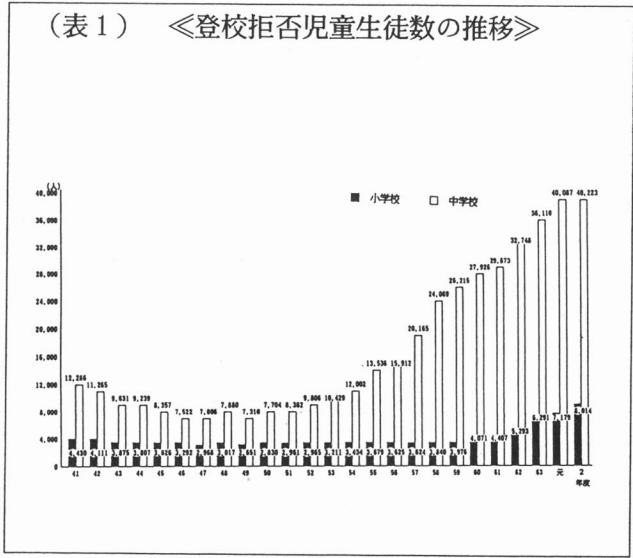
教育相談部 荒 晶子・國分 敏昭・飯島 裕人

- 103号 学業不振から不登校となった生徒への指導援助
- 104号 遊び・非行から不登校となった生徒への指導援助
- 105号 無気力傾向から不登校となった生徒への指導援助
- 106号 母子分離不安から不登校となった生徒への指導援助

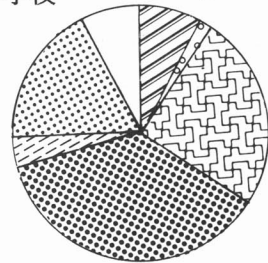
平成3年度文部省の学校基本調査(表1)によると、当該年度一年間に「学校ざらい」を理由にして50日以上欠席した児童生徒の数は、小学校8千人、中学校4万人、合計4万8千人となっています。児童生徒が、減少傾向にある中で年々その数は増加し、昭和41年度の調査結果以来最多となっています。特に、中学校については、昭和53年度を境に急増し、小学校も増加傾向にあります。また、不登校のタイプを小・中学校別に分類すると、その割合は(表2)の通りです。

(表2) <<タイプ別分類>>

(表1) <<登校拒否児童生徒数の推移>>

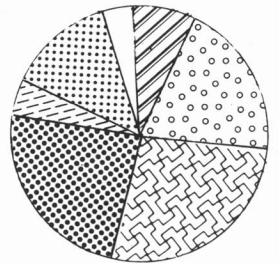


小学校



中学校

- 学校生活に起因する型
- 遊び・非行型
- 無気力型
- 不安など情緒的混乱の型
- 意図的な拒否型
- 複合型
- その他



小・中学校ともに、タイプ別分類では「無気力型」が大きな割合を占めていますが、中学校になると、「遊び・非行型」というタイプが急増します。そこで、本号では、遊び・非行から不登校になった生徒の事例を紹介します。